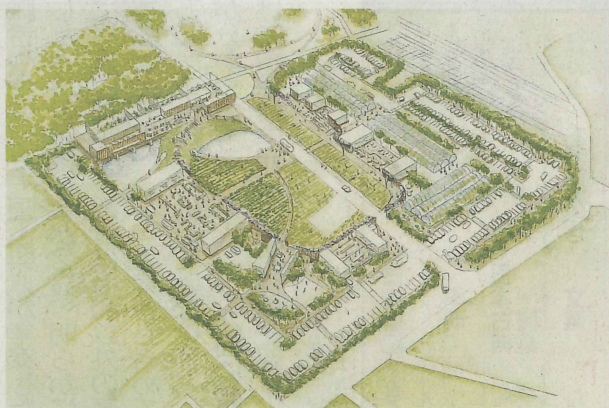


津波で被災 仙台・藤塚地区

集団移転跡地に 食・農・温泉施設



「アクアイグニス仙台」の完成イメージ。「居久根の駐車場」が囲む敷地内の中心部に畑やハウス、レストランなどを配置する

21年秋にもオープン

東日本大震災で被災した仙台市若林区藤塚地区に、レストラン、農園、温泉などの複合施設「アクアイグニス仙台」を整備する計画を2日、建設業の深松組(仙

台市)が発表した。市の防災集団移転跡地利活用事業に応募し、候補に選ばれた。牧歌的な空間で有名シェフ監修の料理やデザートが味わえる場所とし、国内外か

らの誘客を図る。

(16面に関連記事)



る。周囲は駐車場とし、屋敷林「居久根」に見立てて樹木で包む。2020年春に着工し、21年秋ごろのオープンを目指す。地元から200人程度を雇用する。カフェやレストランのメニューは、世界的に活躍するパティシエの辻口博啓氏、鶴岡市のイタリア料理店「アル・ケッチャーノ」オーナーシェフ奥田政行氏、東京の人気店「贅舌面論」店主等原将弘氏が、地元食材を取り入れて考案する。3人はイベントとして開く料理教室にも参加する。

「アクアイグニス」ブランドの施設は、同名の運営会社(東京)が三重県菟田野町で展開し、多くの行楽客を集めている。仙台市の施設は同社と深松組が共同運営する予定という。

深松組の深松努社長は「すぐ近くに仙台空港があり、外国人観光客の利用が見込める。沿岸部の周遊観光の拠点にしたい」と話した。

新たに候補5事業者

仙台市は東日本大震災に伴う防災集団移転跡地の利活用事業で、新たに市民農園などを計画する5事業者を候補者に決定した。同事業は南蒲生、荒浜など沿岸部の5地区31区画（44・3畝）で募集。今回決まったのは4地区7区画（5・0畝）で、これまでの4地区18区画（35・9畝）と合わせると、約9割の移転跡地で利活用方針が固まった。

（一面に関連記事）

市は昨年10月、井土地区

交流の場展開 複合施設整備 野菜など栽培

を除く南蒲生、新浜、荒浜、藤塚の4地区13区画（8・4畝）で募集した。7事業者の応募があり、外部専門家を含む選定委員会が審査

し、5事業者に絞った。

南蒲生地区では、宮城野区の企業が2区画（0・8畝）で、障害の有無に関係なく人々が交流する「ソーシャルファーム」を展開。新浜地区の1区画（0・2畝）は、地元農家が野菜の収穫体験ができる農園を経営し、ハマボウフウなどの海浜植物の栽培も行う。

荒浜地区では、震災前の住民2人が2区画（0・6畝）でそれぞれ市民農園を営む。藤塚地区の2区画3・4畝は、建設業の深松組（青葉区）が農園や温泉などの複合施設「アクアイグニス仙台」を整備する。

2日は市役所で候補者決定通知書の交付式があった。郡和子市長は「被災地の再生が目に見える形になる。にぎわいが生まれ、交流が拡大する」と期待した。

